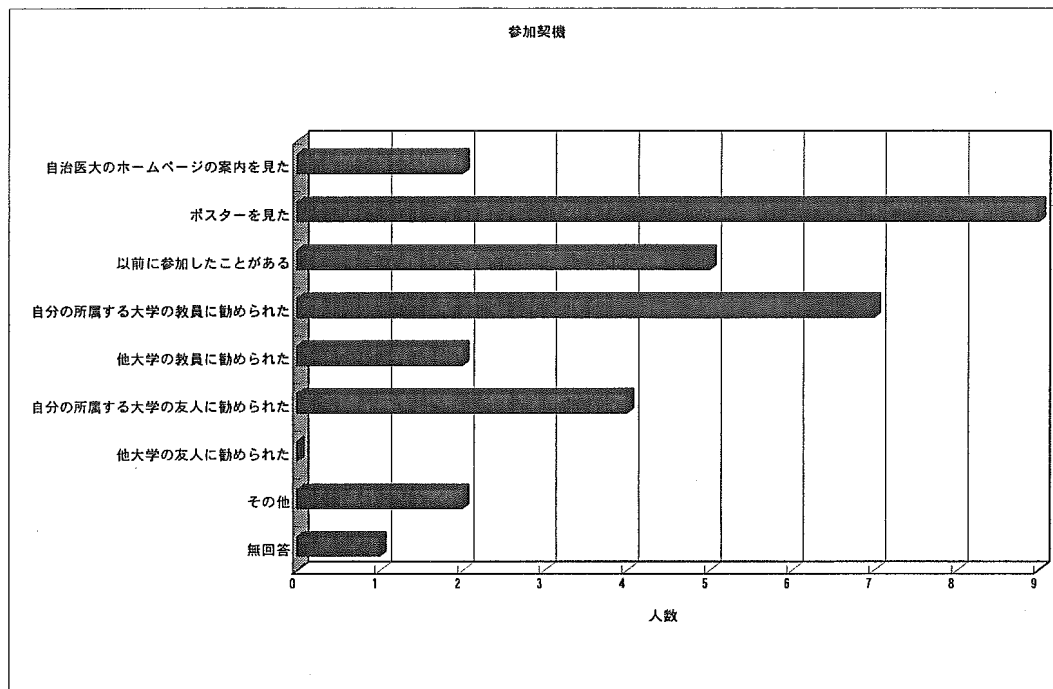
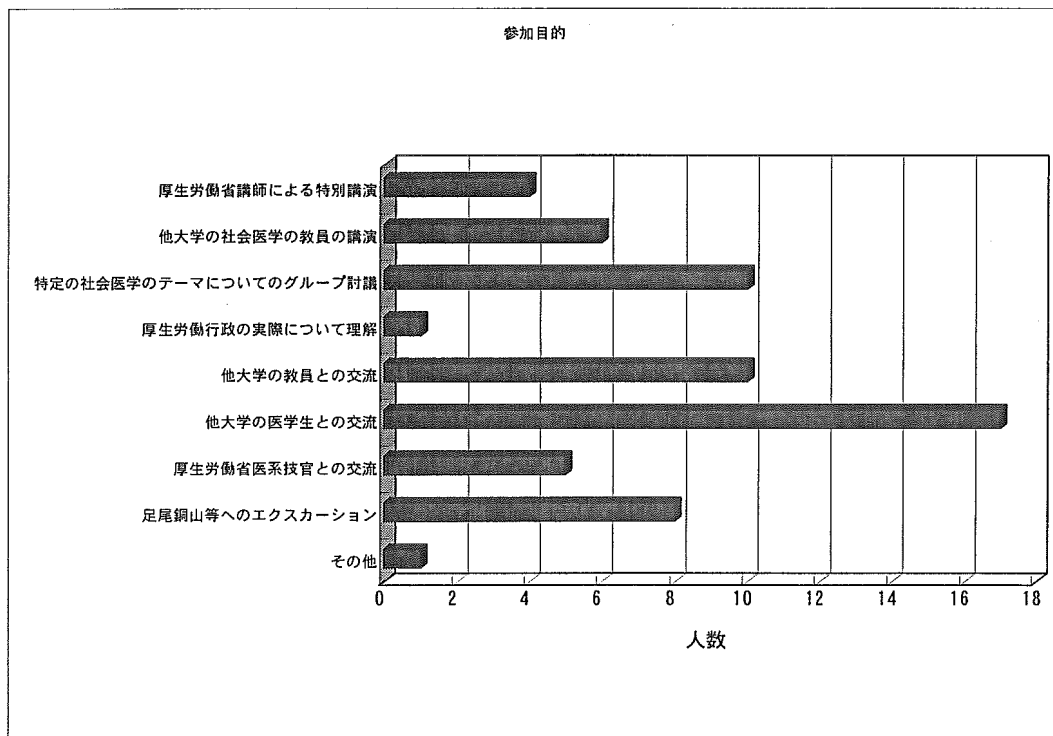


(7) セミナーに参加したきっかけ (複数回答可)

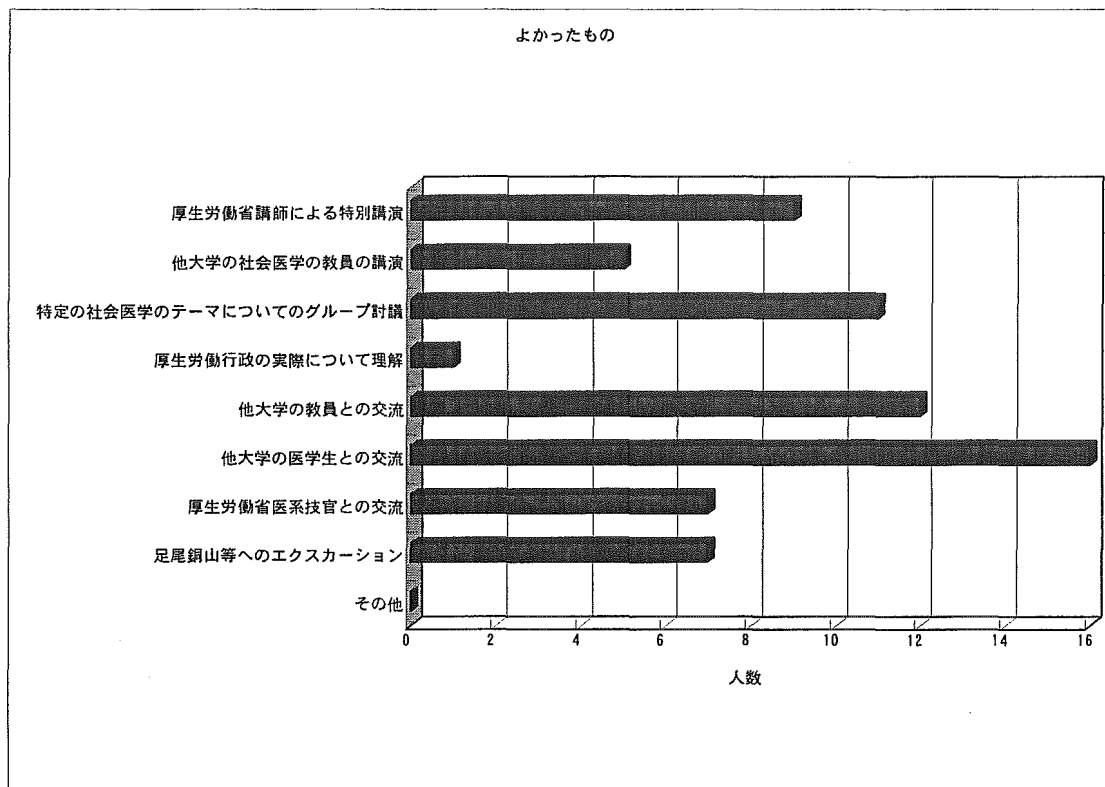


意外にポスターを見たものが多い。参加者の社会医学に対する関心の高さを裏付けるものと考えられる。次に多いものは、自分の所属する大学の教員に勧められたというものであった。また、このセミナー参加が所属大学での単位に反映される大学があるのが判明した。

(8) 今回セミナーに参加した目的 (3つまで選択可)



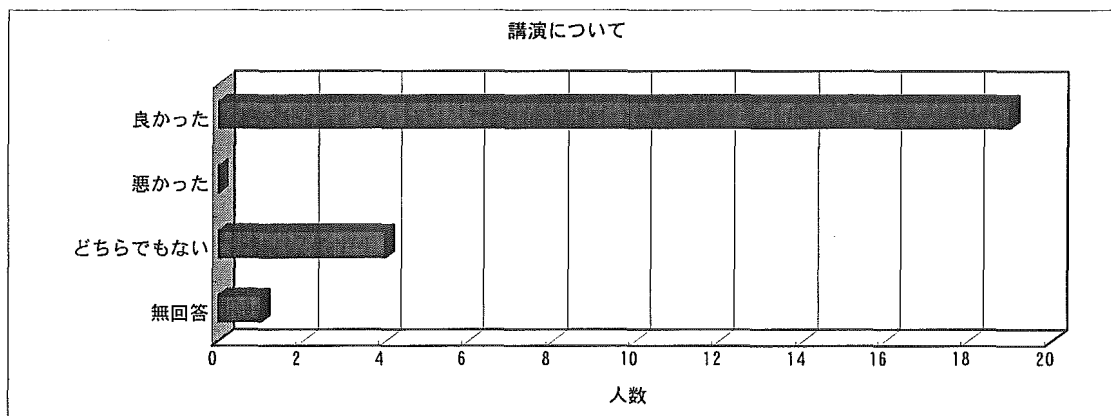
(9) 今回のセミナーで良かったもの (3つまで選択可)



(8)、(9) からわかることは、いろいろな人との交流およびグループ討議を参加目的とするものが多かったが、参加後の結果でも選択した人数に大きな変化はなく、参加者の期待を満足させるものであったと言うことが伺える。

特に、厚生労働省講師による特別講演、厚生労働省医系技官との交流を選択した人数が前後で増加している。これは大学では特別講演など以外で厚生労働省の技官と接触する機会がなかなかなく、大学内では機会に恵まれないためと考えられる。厚生労働省の医療政策など、学生に触れさせる機会が増えれば、関心を持つ学生は確実に増えると考えられ、この分野での学生に対してのアプローチのさらなる充実が必要と考えられ、その情報を学生側も求めていると考えられる。

(10) 厚生労働省講師や大学の教員による講演を聴いてどう思いましたか

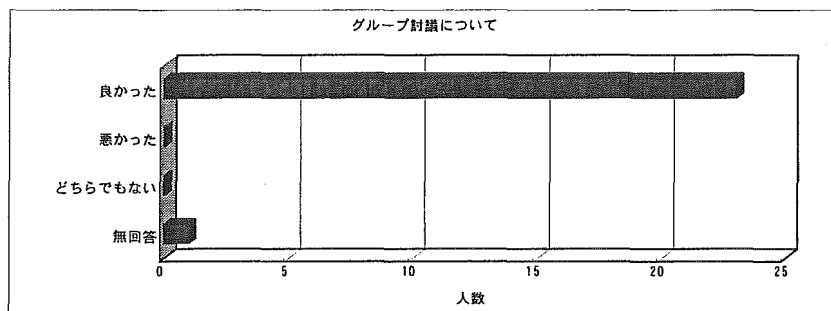


(学生のコメント)

- ・ 社会医学のおもしろさに触れることが出来て、大学で学ぶときのモチベーションとなってよかった。
- ・ いろいろなテーマがあることを改めて認識した。
- ・ 自分の中でだんだんとかもして、将来の自分に役立てられると思いました。
- ・ 日常の学習に戻った時に興味の幅が広がった。
- ・ いろいろな切り口、テーマに触れる機会、契機になった。
- ・ 普段聞けない話、少々難しく感じるところもありましたが特に先生方の研究の話が興味深かったです。
- ・ 普段の学生生活において、聞くことが出来ない先生方の具体的で幅広い内容の講演であったため、様々な面で参考になった。
- ・ 一大学の学生としては聴くことの出来ない幅広い講演で、新たに気付かされるが多かった。
- ・ 大学の教員による授業は、自分の興味があるものも有り、非常に参考になった。
- ・ 自分の大学の講義だと、分野にどうしても偏りが出来てしまうと思うが、様々な大学の先生が話して頂くことによりいろいろな分野に着いて学べて良かった。
- ・ 非常に具体的でためになる講演と専門すぎる講演がありました。
- ・ 内容が研究的な内容だったので、もっと社会全般に関するものもあって良いと思う。
- ・ 普段、大学では聴くことの出来ない講義が聴けて財産になりました。
- ・ 自分の大学の教員が行う講義の中には、どうしても専門分野以外のことを話さなければならない部分もあり、そうしたところは中味も薄くなりがちだと思うが、自分の専門のところの話が聴くことが出来るため、内容も豊富で濃く聞き応えがあった。
- ・ 厚生労働省の方による講演は、非常に具体的で厚生労働省としての立場のものの考え方が良く理解できた。
- ・ 様々な分野について講演があり、一口に社会医学と言っても多数の考え方について知ることが出来、有意義であった。
- ・ 前回に比べ厚生労働省の方々がたくさんいらしていたこともあり、理解が深まった。
- ・ 行政側の熱意が強く伝わり、すばらしい政策を実施する現場も重要だと感じました。
- ・ まだ講義で勉強していないので、知らないことや曖昧なことが解決できて良かった。
- ・ 上級生にとってはつまらないかも知れませんが、下級生のために「社会医学概論」などの講演を一つ聴きたかったです。
- ・ せっかく多くの先生が来られていたので、各先生から講義も聴きたかった。
- ・ うまく主旨が伝わってくるもの、こないものと両方あったように思います。
- ・ 時間を大幅に延長する講演は良くないと思いました。
- ・ もっとクリアに話してほしい。
- ・ 大学の学外講師による講義とあまり変わらないものもあり残念だった。

大学では、なかなか得られない講義のためコメントから関心の高さが伺える。

### (11) グループ討議についてどう思いましたか



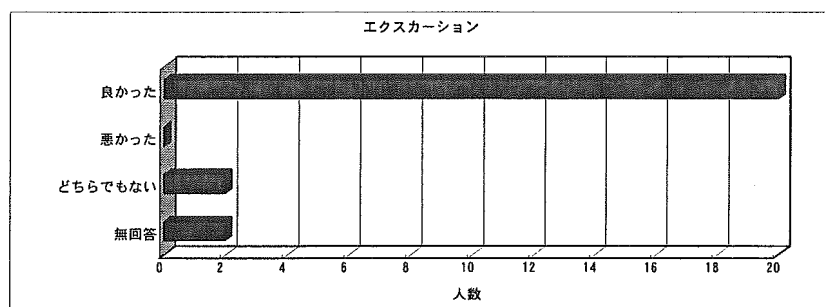
#### (学生のコメント)

- ・一つの問題について、いろいろな学年、大学からの意見を出し合って考えることが出来、良かった。
- ・先生方や班の方たちが導いてくれたこともあり、とてもおもしろかったです。大変広い範囲の中からテーマや問題点を選び、解決策を考えたり検討していく過程は勉強になりました。もっとたくさんの時間がほしいくらいでした。
- ・自分の大学でもグループ討議を行っているが、今回のグループ討議では学年も異なり、社会医学を学んだ方法が異なるために、新たな考え方を聞く契機になって良かったと思う。
- ・自分の視点や考え方がまだまだ狭いこと、知識不足に改めて気づき、班員の方々や先生方から物事、問題を解決する際の手法について多くを学び、大変勉強になった。
- ・他大学の人達と本音で意見がぶつけ合えて良かった。
- ・具体的な立案に対し先生方や厚生労働省の方々の厳しい目からの指摘が頂けて勉強になった。
- ・例年に比べようがないほど具体的で幅が広く分かりやすく、飽きが起こりにくく、興味がわきました。
- ・学生に司会者をさせるのは、非常によい経験でためになりました。
- ・グループ発表、討議では、あまり経験がなかったので良い経験になりました。
- ・意見交換で思いもよらない意見が出てきたりして良い討論が出来たと思う。
- ・時間の制限、資料が少ない等の点から、全体として荒削りな発表だったと思うが、その分学生としての率直な意見が出てきておもしろく、刺激的だった。
- ・自分にきちんと意見がないと討議をしてもおもしろくないとひしひしと感じました。
- ・学生同士の意見と、専門家の意見はやはり先生方の方の話が鋭いと思いました。
- ・グループ討議について、事前に分担してスライド作りをある程度行っていたので討議を充実させることが出来た。
- ・チュートリアルのようにお互いの意見を交わすことで問題に対する理解が深まった。
- ・学生同士でテーマから全てを決めて発表するのは大変良い経験になった。資料を集めることも勉強になり良かった。
- ・教員がチューターのようについていたので、調べ切れていない点や考え方が甘い点を指摘してもらえた。
- ・予めテーマを決めておいたため、例年に比べ資料を集める余裕があり、議論を深めることが出来たと思う。
- ・他大学の人と話し合えるというだけで貴重な場だった。
- ・自分たちのとても良い学習になった。
- ・各班とも発表がおもしろく、ためになった。
- ・他の人達の考え方に触れられた。
- ・多面的な視野、視点に気付いた。

- ・充実した議論が出来ました。
- ・難しかったということがよくわかった。
- ・自分の意見を論理的に述べて、説得することは難しかった。それを知れたのは大きな収穫。
- ・いろいろな学年、経歴、積極性のある人がいるので、共同作業や話し合いの進め方、発表の主旨を説明、指導する機会を設ければ、より質の高い一貫性のある発表と議論が出来たと思います。学校でもこれだけまとまった時間を議論できる機会はなかなかないので、スキルを身につける機会として位置づけると、セミナーの魅力が高まると思います。
- ・班以外の人と話す機会がなかったのでいろいろな人と話せるような時間をとって頂けるとうれしかったです。
- ・みんな、自分では思いもつかないような発現をしてくれ、とても興奮しました。一つのテーマについて討論して発表の用意をするのも良いのですが徒然と言い合うというのも楽しかった。
- ・講義の時間を半分くらいにして、その時間をグループ討論に当ててほしい。

今回の討議では学生に司会進行役を務めさせることにした。このことは受動的でなく積極的参加を提供し、いろいろな立場を経験することで、発表する側、討議を聞く側、討議を仲裁・進行する側などいろいろな立場を経験することによって、学生自身が幅広い視野に立って物事を考えること、聞くことが出来たのではないかと考えられる。

#### (12) 足尾銅山等へのエクスカージョンや富弘美術館はどう思いましたか



(学生のコメント)

足尾銅山等へのエクスカージョンについて

- ・個人では見られないところが見れ、見学場所全て新発見という感じで大変良かった。
- ・一般的な観光では見る事が出来ない現状を国土交通省の方が説明して頂いてとても参考になった。
- ・普段絶対に行けないところだったと思うので、かなり貴重な体験が出来ました。
- ・通常では、行けないところに行くことが出来、とても良かった。
- ・単純に楽しかったし、地域の抱えている問題も垣間見えた。
- ・時間のない中、個人では行けないところへ行けたことが良かった。
- ・被害を受けた土地をより近くで見ることが出来て勉強になりました。
- ・通常では入ることが出来ない場所に行け、足尾の精錬所を見て感動した。
- ・土壌への鉍毒のひどかった地域についても学びたかった。
- ・なかなか出来ない体験が出来たので良かった。
- ・貴重な体験になったと思うし、現実としてとらえることが出来て良かった。

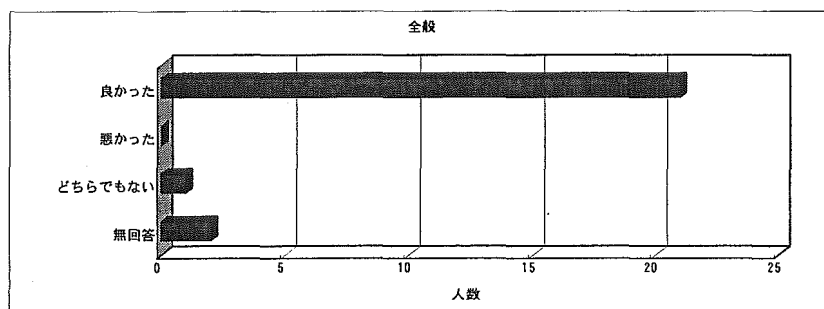
- ・ 銅山に行きたかった。
- ・ 公害の爪痕の生々しさを感じる事が出来た。
- ・ 有名な話の実際を目で確認することが出来た。
- ・ たった一つの工場があれ程の公害を引き起こすことを知って驚いた。
- ・ 環境保健を考える上で、とても印象的な教材になったと思う。
- ・ 一回足尾銅山の公害について講演を聴いてからいけば、もっと良かったと思います。
- ・ 負の遺産がそのまま残っている現場を見る事が出来たのは貴重な体験でした。また、その負の遺産を修復するには、時間、人、金、全てにおいて膨大な量が必要だと言うことが、改めて再認識させられました。
- ・ 禿げ山と緑のコントラストが、痛々しかった。緑化のために崖で働いていた方々が、埃まみれで仕事していたのを見て、昔足尾で働いていた人達の様子を思い浮かべました。
- ・ 緑化に長い時間がかかると思うが、実を結べば良いと思う。

#### 富弘美術館について

- ・ 美術館もかなり心に響く詩を目の当たりに出来、幸福な気分を味わえました。

足尾銅山の衝撃的光景を見ることによって、地域の環境保全・人々の健康など、我々人間が自然あるいは産業とどう付き合っていくかを考えさせるものとなったのではないかと考えられる。

#### (13) その他、セミナー全般にわたってどう思いましたか



#### (学生のコメント)

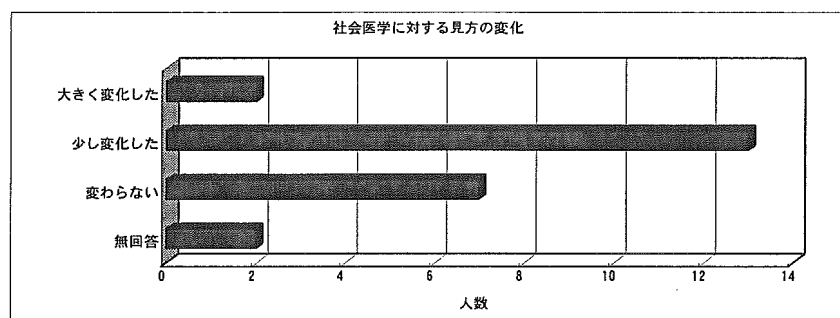
- ・ 社会医学はおもしろいと、改めて感じました。
- ・ 講義はとても充実していました。
- ・ ハードスケジュールでしたが、充実していて良かったです。
- ・ 夜の交流会は大変有意義でした。
- ・ 時間が足りない、内容は濃いのに2泊では足りないくらいだと感じました。
- ・ 例年よりもまとまっていて、しかも充実していたと思う。
- ・ 比較的テーマ、方向性が揃っていて良かったと思う。
- ・ 前回も感じたが、本当に広い社会医学を体感できる良い機会だった。
- ・ 最終日の前の日に各班の発表があったらもっと内容を共有できたのではないかと感じました。
- ・ 他大学の先生や学生の方と交流をもつことが出来て、本当に今後について参考になることが多かった。
- ・ 先生方と学生の距離が近く、いろいろ話が出来たことが特に良かったです。
- ・ 先生方も気さくで話をしてくださったり、議論、専門的な話をさせて頂いて、良い体験になったと思う。

- ・多くの先生と交流でき、考えてきたことが深まった。
- ・他大学の学生、教員と話すことによって様々な考え方に触れられた。
- ・いろいろな人と話せたのが良かったです。
- ・交流の場を用意して頂き、その全てが無料というのは本当にすごいことだと思った。
- ・教員の方々と話せて世の中の暗い面も垣間見えた。
- ・厚生労働省以外のキャリアも説明すべき。公衆衛生医を目指す人のキャリアプランニングという題名で、行政、研究の両方を経験した人から、概要を説明して頂ければ役立つと思う。
- ・コンピュータは開催側で人数分用意すべきでは。インターネット環境も必要。

終えたことよっての満足度は高かったようである。

環境・産業を考える意味で足尾を選んだが、コンピュータ、インターネット環境としては周囲が山に囲まれていたため、満足行く環境ではなかったようである。しかし、普段は見ることの出来ない場所を見て感じたと言うことは、各自にとって貴重だったのではないかと考えられる。

(14) 今回のセミナーに参加して社会医学に対する見方に変化がありましたか



(学生のコメント)

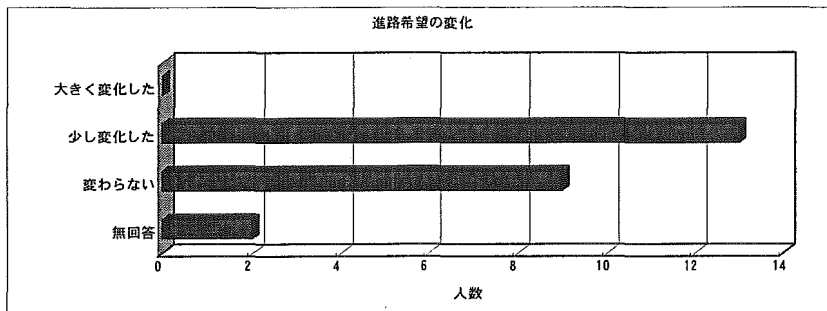
- ・社会医学でも動物実験など行うので、フィールドから実験室まで地球上全てが社会医学の研究室だと思いました。
- ・社会医学と言うとサイエンスが苦手な人の逃げ場だと思っていましたがそうではないと知りました。
- ・こんなに広い分野を自由に出来るんだと驚いた面もあり魅力を感じた面もあった。
- ・社会医学の幅の広さをより大きく感じるようになった。
- ・より詳しい知識を入れたことで、少し多くの角度から見れるようになった気がする。
- ・おもしろい分野だと思いました。
- ・社会医学を積極的に行っている先生、学生を見て、自分ももう少し知識を得たいと思った。
- ・より大きなフィールドを持つ分野として社会医学をとらえ直せた。
- ・毎年いろいろな先生方と交流が出来、知識の幅を広げることが出来た。
- ・自分が考えているよりももっと広い視野に立って、考えて行かなければならないと思った。
- ・社会医学の講義を受けたことがなかったので社会医学が何たるかが分かった。
- ・医療以外の分野との連携も意識しなければ行けないと思った。
- ・医療行政の役割について理解が深まった。

- ・消化不良。
- ・その変化をうまく表現できません。

もともと、この分野に興味があり変わらないと答えたのか、あるいは興味がありさらなる理解が深まったと言うことで少し変化したと答えたのか、アンケートだけからではいろいろなとらえ方が考えられ、推察の域を超えない。

しかし、確実に社会医学に対して興味を持っている学生が増えたのではないかという印象は感じた。

(15) 今回のセミナーに参加して自分の進路の希望について変化がありましたか



(学生のコメント)

- ・マクロ的な視点から見る立場につきたいと思うようになった。
- ・厚生労働省へ入省することなど全く考えられなかったが、一つの進路として考えられるようになった。
- ・今まで厚生労働省で具体的に医師がどう働いているか知らなかったので、一つの選択肢として考えたいと思いました。
- ・医療行政官志望がより高まった。
- ・厚生労働省の人にも良い場だと思う。直接話が出来るといろいろ考えるところがある。
- ・先生方と話す中で、将来の選択肢がまだまだたくさんあることがわかった。
- ・社会医学を将来の選択肢の一つとして真剣に考えていきたいです。
- ・最終的には臨床医を行いたいと思っているが、社会医学を少しやりたいと感じるようになりました。
- ・社会医学に関する理解を深めることが出来、大きな参考になった。
- ・もう少し自分の進路を絞って考えなくてはいけないと考え直しました。
- ・思っていたより、広い範囲で活躍している方々がいることを知り、今度話を伺いに行こうと考えました。
- ・産業医というものが、あまり医者としての働きが少ないと思っていたが、そうではないということが分かりました。
- ・今まで理想を実現するためには、厚生労働省しかないと思ったときがありましたが、現場から厚生労働省に対して働きかけをすることの大切さを知ることが出来たので、その点では、やはり自分は現場で人の声を生で聞きながら、厚生労働省に働きかけるような立場になりたいと思います。
- ・相変わらず迷っている。
- ・わからない。

これもとらえ方は(14)と一緒に、もともと、この分野に興味があり進路が変わらないと答えたのか、あるい



は興味がありさらなる理解が深まったと言うことで少し変化したと答えたのか、あるいはもうほぼ進路は決まっ  
ていて大きく変化しなかったのか、アンケートだけからではいろいろなとらえ方が考えられ、推察の域を超えな  
い。

おそらく、大きく変化したという回答がなかったのは、すでにこの分野に進もうと決めているものがあるのかも  
知れない。また、今回 1 回だけでは自分の人生はそんなに大きく変化しないのではないかというのが、正直なと  
ころであろう。

しかし、このことに対しても確実に社会医学に対して興味を持っている学生が増えたのではないかという印象が  
感じられた。

衛生学公衆衛生学教育協議会 社会医学サマーセミナー参加学生フォローアップ調査  
結果概要

衛生学公衆衛生学教育協議会事務局

I 調査対象・方法

1. 調査対象: 第1回(平成7年)から第9回(平成15年)に参加した学生のうち、参加時に医学生であった者。大学院生、看護学生等は除く(除外人数=17人)。
2. 調査方法: 各大学(59大学)の衛生学公衆衛生学関連教室に大学別参加者名簿を送付し、フォローアップ調査を依頼。各大学においては、同窓会名簿等を用いて進路先を確認。

II 調査結果

1. 対象人数: 316人

(うち29人は複数回参加)

2. 参加年(初回参加)

平成	参加人数	(%)
7	20	(6.3%)
8	22	(7.0%)
9	21	(6.6%)
10	35	(11.1%)
11	36	(11.4%)
12	46	(14.6%)
13	48	(15.2%)
14	41	(13.0%)
15	47	(14.9%)
計	316	(100.0%)

3. 参加時学年(初回参加)

学年	人数	(%)
1	13	(4.1%)
2	12	(3.8%)
3	54	(17.1%)
4	124	(39.2%)
5	83	(26.3%)
6	29	(9.2%)
不明	1	(0.3%)
総計	316	(100.0%)

4. 現在卒後年数(平成17年2月末現在)

卒後年数	人数	(%)
1	40	(12.7%)
2	46	(14.6%)
3	40	(12.7%)
4	43	(13.6%)
5	15	(4.7%)
6	23	(7.3%)
7	18	(5.7%)
8	8	(2.5%)
在学中	82	(25.9%)
不明	1	(0.3%)
合計	316	(100.0%)

5. 進路状況(平成17年2月末現在)

現在の職業等	人数	(%)
社会医学系教員・研究者	3	(2.0%)
社会医学系大学院院生	9	(6.0%)
厚生労働省他中央省庁	9	(6.0%)
保健所・地方衛生行政	1	(0.7%)
産業医	2	(1.3%)
臨床医 <sup>a</sup>	116	(77.3%)
非社会医学系大学院院生	6	(4.0%)
基礎医学系教員・研究者	2	(1.3%)
その他	2	(1.3%)
合計 <sup>b</sup>	150	(100.0%)

a 卒後2年目以降

b 在学中(国師浪人中含む:85人)、研修医(卒後1年目:33人)、不明(48人)を除く

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ	備考
		衛生学公衆衛生学教育協議会	第10回社会医学サマ－セミナー報告書「足尾の歴史から社会医学の原点を考える」	衛生学公衆衛生学教育協議会	東京	2004	92	別添
		衛生学公衆衛生学教育協議会	地域保健・医療研修評価のためのワークショップ報告書	衛生学公衆衛生学教育協議会	東京	2005	42	
	地域保健・医療研修の評価方式等の様式	河野公一、川口毅、松浦尊磨	コアローテーション地域保健・医療／予防医療	金芳堂	京都	2005	327-347	本報告書内 p127-166

#### IV. 研究成果の刊行物・別刷

地域保健・医療研修  
評価のためのワークショップ報告書

衛生学公衆衛生学教育協議会  
卒後研修委員会

平成 17 年 3 月

## 目 次

案 1-1	地域保健・医療研修 評価票（指導医用）	1
案 1-2	地域保健・医療研修 評価票（自己評価用）	2
案 2-1	地域保健・医療・評価票 -保健所・へき地医療-（指導医用）	3
案 2-2	地域保健・医療・評価票 -保健所・へき地医療-（自己評価用）	13
案 2-3	地域保健・医療・評価票 -産業保健-（指導医用）	23
案 2-4	地域保健・医療・評価票 -産業保健-（自己評価用）	28
案 3-1	指導体制・研修プログラム評価（指導医記載用）	33
案 3-2	保健師・看護師・栄養士等による評価票	34
案 3-3	研修医についてのアンケート	35
案 3-4	研修医による指導医評価票	36
案 4-1	臨床研修にかかわる契約等	37
案 4-2	臨床研修受け入れ承諾書	38
案 4-3	産業保健臨床研修報告	39
案 4-4	出向契約書	40
	ワークショップ実施次第	41
	ワークショップ出席者一覧	42

# 案 1-1

## 地域保健・医療研修 評価票（指導医用）

研修施設名 \_\_\_\_\_

研修部門（科） \_\_\_\_\_

研修医氏名 \_\_\_\_\_

研修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

指導医名 \_\_\_\_\_

評価基準 4=とりわけ優れている                      3=標準的レベルを上回っている  
2=標準的レベルに達している                  1=不十分なレベルに留まっている  
×=研修していない

主要な研修事項については内容等について口欄の中に記入すること。

### 1. 臨床研修の目標

各種の保健・医療・福祉の施設において、参加型の研修を通じて施設の活動、地域医療、産業保健ならびに各種の予防医学の実践を研修することを目標としている。

### 2. 臨床研修内容

- 1) 指導医のもとで健康診断、健康教育、健康相談を行い、住民への基本的な対応の仕方を研修する。
- 2) 施設に入院、入所している高齢者、障害者等に対して指導医のもとで介護や初期診療、相談等を実践しその対応の仕方を研修する。
- 3) 地域での健康教育、訪問指導、患者の往診などを指導医のもとに実践し、住民や患者がどのような環境の中で生活しているかを体験する。
- 4) 公衆衛生関連法規の運用の実際を保健師、看護師、栄養士、臨床検査技師、衛生行政や保健衛生を担当する事務職員などの人達との協働によるチームアプローチを通じて研修する。
- 5) 職域を場とする成人の健康管理を中心に、健康教育、健康増進活動、有害業務管理、およびこれらを総括する管理等について理解し、その一部を実践することにより、医師としての基本的な知識、技能、態度を身につける。



## 案 1-2

### 地域保健・医療研修 評価票（自己評価用）

研修施設名 \_\_\_\_\_

研修部門（科） \_\_\_\_\_

研修医氏名 \_\_\_\_\_

研修期間 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日

指導医名 \_\_\_\_\_

評価基準 4＝とりわけ優れている                      3＝標準的レベルを上回っている  
2＝標準的レベルに達している                  1＝不十分なレベルに留まっている  
×＝研修していない

主要な研修事項については経験した内容等について口欄の中に記入すること。

#### 1. 臨床研修の目標

各種の保健・医療・福祉の施設において、参加型の研修を通じて施設の活動、地域医療、産業保健ならびに各種の予防医学の実践を研修することを目標としている。

#### 2. 臨床研修内容

- 1) 指導医のもとで健康診断、健康教育、健康相談を行い、住民への基本的な対応の仕方を研修する。
- 2) 施設に入院、入所している高齢者、障害者等に対して指導医のもとで介護や初期診療、相談等を実践しその対応の仕方を研修する。
- 3) 地域での健康教育、訪問指導、患者の往診などを指導医のもとに実践し、住民や患者がどのような環境の中で生活しているかを体験する。
- 4) 公衆衛生関連法規の運用の実際を保健師、看護師、栄養士、臨床検査技師、衛生行政や保健衛生を担当する事務職員などの人達との協働によるチームアプローチを通じて研修する。
- 5) 職域を場とする成人の健康管理を中心に、健康教育、健康増進活動、有害業務管理、およびこれらを総括する管理等について理解し、その一部を実践することにより、医師としての基本的な知識、技能、態度を身につける。

案2-1 地域保健・医療・評価票 一保健所・へき地医療一（指導医用）

【 保健所用 】

	内容※	指導医 評価
地域の現状把握と地区診断		
一般目標（GIO）		
地域の健康上の要点や問題点を把握し理解する。		
到達目標（SBOs）		
① 地域の保健情報を用いて地域の要点や問題点が指摘できる。	見・実	
② 地域の健康問題解決への道筋を理解できる。	見・実	

※見学・聴講型なら「見」に参加・実施型なら「実」に○をつける

経験が望まれる事項

①人口動態統計（小票）の集計・解析

実施した場合の評価

非実施 見学 実施

--	--

②結核登録票の集計・解析

非実施 見学 実施

--	--

③特定疾患治療研究事業申請書の集計・解析

非実施 見学 実施

--	--

④精神障害者通院医療費公費負担申請書の集計・解析

非実施 見学 実施

--	--

【 保健所用 】

	内容*	指導医 評価
健康危機管理（感染症，食中毒の発生，災害について想定モデルの元に対策の樹立を体験）		
一般目標（G I O）		
行政や地域の医療関係者が感染症や食中毒あるいは災害等の健康危機についてどの様に対応しているか，また対応すべきかについて実践を通じて知る。		
到達目標（SBOs）		
①感染症・食中毒の疫学の考え方と技法を説明できる。	見・実	
②健康危機管理について行政および地域医療機関の役割について説明できる。	見・実	
③健康危機管理プログラムの要件を書くことができる。	見・実	
④健康危機発生時における医師の役割を説明できる。	見・実	

※見学・聴講型なら「見」に参加・実施型なら「実」に○をつける

経験が望まれる事項（キーワード）

（項目は、保健所の事情に合わせて変更可能。事例がない場合はシミュレーションを実施。）

①感染症・食中毒発生時の疫学調査

実施した場合の評価

非実施    見学    実施

--	--

②結核（排菌している患者等）が発生した時の接触者検診

非実施    見学    実施

--	--

③新興感染症発生時対応訓練

非実施    見学    実施

--	--

④災害対策にかかわる会議

非実施    見学    実施

--	--

⑤過去における集団食中毒事例の疫学調査票の集計・解析

非実施    見学    実施

--	--

⑥医療法に基づく医療機関への立ち入り検査，薬事法に基づく薬局の立ち入り検査

非実施    見学    実施

--	--

⑦結核診査協議会

非実施      見学      実施

--	--

⑧各種健診およびその判定会議等への参加

非実施      見学      実施

--	--